

本校生徒の課題

視野の狭さと、もう一歩先へ(one more step) と自らを高めようと挑戦する自律的な行動と決断力

校訓 「自主」「敬愛」「努力」（目指す生徒像）の実現

物事をよく見て理解し、自ら考え正しく判断するとともに、主体的・協働的に探究し行動することができる生徒

＜必要な資質・能力＞①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力（発信力） ③主体性

■何をどのように理解しているか、何ができるか（基礎学力の確実な習得を基にした、社会の様々な場面で活用できる体系化された知識・技能、客観的分析、挑戦することの価値、失敗からの学び）

■理解していること・できることをどう使うか（課題発見・解決へのプロセスの主体的選択、正解主義からの脱却）

自他の人権や生命を敬い尊重する精神を持ち、多様性を認め合いよりよい人間関係を形成することができる生徒

＜必要な資質・能力＞④想像力 ⑤協働性（対話力） ⑥社会性（エンパワーメント思考）

■どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（異なる文化や価値観を包摂する態度、互いの良さを生かして協働する力、リーダーシップ、感性、責任感、思いやり（コンパッション）等）

望ましい自己実現のため不断に資質・能力の向上に努め、豊かな地域づくりに参画しようとする意欲を持つ生徒

＜必要な資質・能力＞⑦自律的活動力 ⑧自己効力感 ⑨実行力・継続力

■どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（自己の感情や行動を統制する能力、自律的に学習等に取り組む態度、持続可能な社会の創り手としての姿勢、生涯に渡る学びの継続への意志） 自己肯定感も加えて プレゼンカ

本校キャリア教育の目標 確かな意思を持って学びを深め、多様な経験や交流を通じて、自己の豊かな生き方・在り方の認識を深める（R7～）

本校キャリア教育の重点（土台）

自助(Self-help) 【自分が何を得るか】 校訓「自主」「努力」の一つの在り方

共助(Mutual-help) 【人に何を与えるか】 校訓「敬愛」の一つの在り方

マイクロ・インサージョンの手法で

→日々の授業に探究とキャリア教育の視点

ICT の積極活用（校務 DX 化）

＜主体的・対話的で深い学び＞

＜デジタルでリアルな学びを支える＞

地域素材・人材の活用を通じて（浦河町・日高管内・北海道を活かす）

○防災・減災に係る資質・能力の向上

・地域と連携した避難訓練・1 日防災学校・地域防災リーダーの育成

○幼・小・中・高連携による相互の資質・能力の向上（キャリアパスポートの活用）

・外国語活動、外国語学習に係る支援 ・長期休業中の学習支援

・地域のスポーツ指導支援 ・ICT 機器活用や探究学習に関する支援 など

○地域課題に資する資質・能力の向上

・地域創生（活性）等のための取組（企画及び運営）

・国際理解（外国人移住者に対する支援等）

・地域の重点的取組への参画 ・地域資源（ジオパークなど）の調査・活用

・地域ボランティアへの参加 ・生産、加工、販売に係る体験

○主権者教育、租税教育、消費者教育の充実（18 才成年を踏まえて）

・選管や税務署、法務局との連携による啓発、体験活動、法教育等の充実

・権利・義務の主体として能動的に行動することの意義→公の幸福に資する

教科科目・行事等横断的に育む取組

○体験活動を重視し、自他を支える知恵（生きて働く知識・技能）の習得

○主体的・対話的で深い学びの実践（探究的視点・健全な議論を重視）

○ICT の活用による情報活用能力の向上（デジタル・シティズンシップの涵養）

○教科・科目で横断的・体系的教育課程が編成されるよう単元配列表の作成

→シラバスに記載

○全ての教科・科目、行事などに、目標を設定→教科・科目はシラバスに記載

・目指す生徒像の実現に向けて、どんな資質・能力を身に付けさせるのか

・どのような素材や場面を通して身に付けさせるのか（見方・考え方）

・どのレベルで、何ができるようになるまで、身に付けさせるのか（具体的な生徒の姿をコアルーブリック（浦高ルーブリック）で評価）

目指す生徒像の総合評価場面＝課題研究の取組、成果で評価

コアルーブリックの活用（本校の目指す生徒像実現に向けた資質・能力 9 項目をルーブリックで評価）

○1 年「産業社会と人間」→2 年「課題研究」（総合的な探究の時間）→3 年「課題研究」（総合的な探究の時間）

○目指す生徒像を踏まえたねらいの明確化→評価の観点、評価場面、評価方法の改善

○目指す生徒像実現に向けたカリキュラムマネジメント→学校行事等を含め総合的に評価を実施

○課題研究＝問題解決型、立場表明型、価値創造型を継続的に深化←責任ある提案・活動へ

＜社会的価値のあるテーマ設定＋地域課題等の解決に資する成果＋国際的視野の涵養＞

キャリア教育を推進する組織構成

校務運営委員会 ― キャリアガイダンス部

各分掌・年次などと連携し、目指す生徒像実現に向けて、キャリア教育を推進・コーディネート

○体系的・横断的教育課程のコーディネート など

○生徒の主体性育成に係るコーディネート など

○自己理解、社会・職業理解に係るコーディネート など

○3 年間を見通したキャリア教育の実施
○「産社」→「課題研究 1」→「課題研究 2」の評価を基に、年次に応じたキャリア教育の指導 など

教務部

生徒指導部

進路指導部

1・2・3 年次

キャリア教育で求められる基礎的・汎用的能力

人間関係・社会形成能力

学校教育目標との関連

(1) 多様な考え、価値観を理解し、相手の考えを尊重した上で →①②④

自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。

(2) 自分の置かれている状況を理解し、それを受け止めた行動 →⑥⑦⑨

を行うことができる。

(3) 積極的に社会に参画する力を身につけることができる →③⑤⑧

(4) 多様な他者と力を合わせ、社会の中で自己の役割を果たす →⑤⑥⑨

ことができる。

自己理解・自己管理能力

(5) 自分の能力や可能性について客観的かつ肯定的に理解する →⑦⑧

ことができる。

(6) 社会の要望や状況に応じ、自らの思考や感情を律すること →②⑥⑦

ができる。

課題対応能力

(7) 日々直面する様々な課題を発見し、それを克服する方法を →①②⑨

分析、計画的にそれを実行し、試行錯誤しながらも解決に

導くことができる。

キャリアプランニング能力

(8) 多様な生き方に関する様々な情報（仕事、学校、進路決定 →①②

の方法、社会情勢、労働観、求められる資質など）を収集

することができる。

(9) 収集した情報を適切に取舍選択・活用しながら、自ら主体的 →②③⑨

に判断して自分の生き方を選択していくことができる。

(10) 自分で行った選択を社会環境などに応じ、適切に軌道修正 →②③④⑥⑦

することができる。

・体験を通じて、**繋ぐ力・繋げる力・繋がる力**を育成

・全ての学びを相互に関連させ、活用できることを目指す

教科・科目、総合的な探究の時間・行事・部活動も含めた広義的教育課程における自己評価へ位置づけ

キャリア教育改善の視点

○全体計画を3 年ごとに見直し・改善

・コアルーブリックは単年度ごとに見直し改善を図る